

つがるの昔っこ (昔話) ③

# 嫁の願掛け

(津軽弁Ver.)



国土交通省 東北地方整備局  
岩木川ダム統合管理事務所  
イラスト：やざわ ゆな  
カラーリング：つしま けいこ

むがし、たいした神信心・ほどげ（仏）信心だばって、嫁さだばなんもかんも根性いぐね（良くない）、ばさま（婆様）いであつたど。朝まはえぐ（早く）おぎで（起きて）、神様拝んで、ほどげ様拝んで、嫁あわんつかでも（少しでも）おせぐ（遅く）起きれば村中ぐだめで（愚痴を言って）歩ぐんだど。すごど（仕事）すうこど（すること）から料理の味コでも、寝るのからおぎることまんで、嫁のすることあ、なんでもかんでも気に入らねんで、今日は隣、明日はむげ（向かい）で、嫁のあこもこ（悪口）しゃべてあさぐ（歩く）嫁もぎだ（嫁いびりな）ばさまでつた（だった）ずおんなあ。嫁あそれ好きでねんで好きでねんで、我慢できねぐなつて、とうとうばさまば殺してしまう気さなつてしまつたんだど。

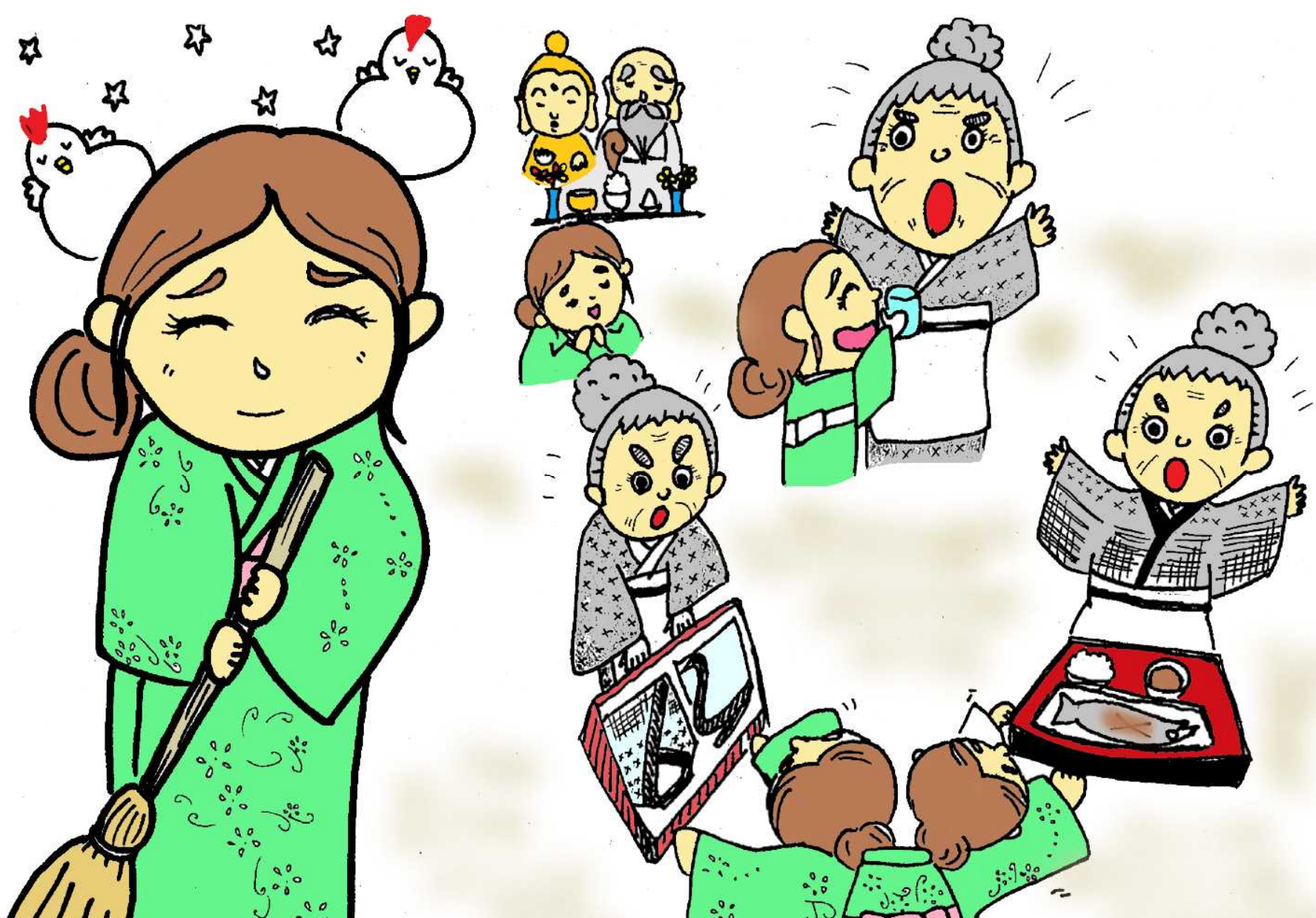


あるし(日)に、おでら(お寺)さ行って、おしよ(和尚)様さ、たまりにたまってら腹のなが(中)のごとみんなしゃべてから、「おいの(うちの)ばさまは、こしたらだ(これほど)根性いぐね嫁もぎだはんで、早く死ぬようにつて拝んで けへ(ください)」って頼んだど。

おしよ様、嫁の話とば「うんうんうん」てうなづきながら とつこど(じっくりと)聞でらつきや、朝まがら ばげかだ(晩方)まで かがったんだど。

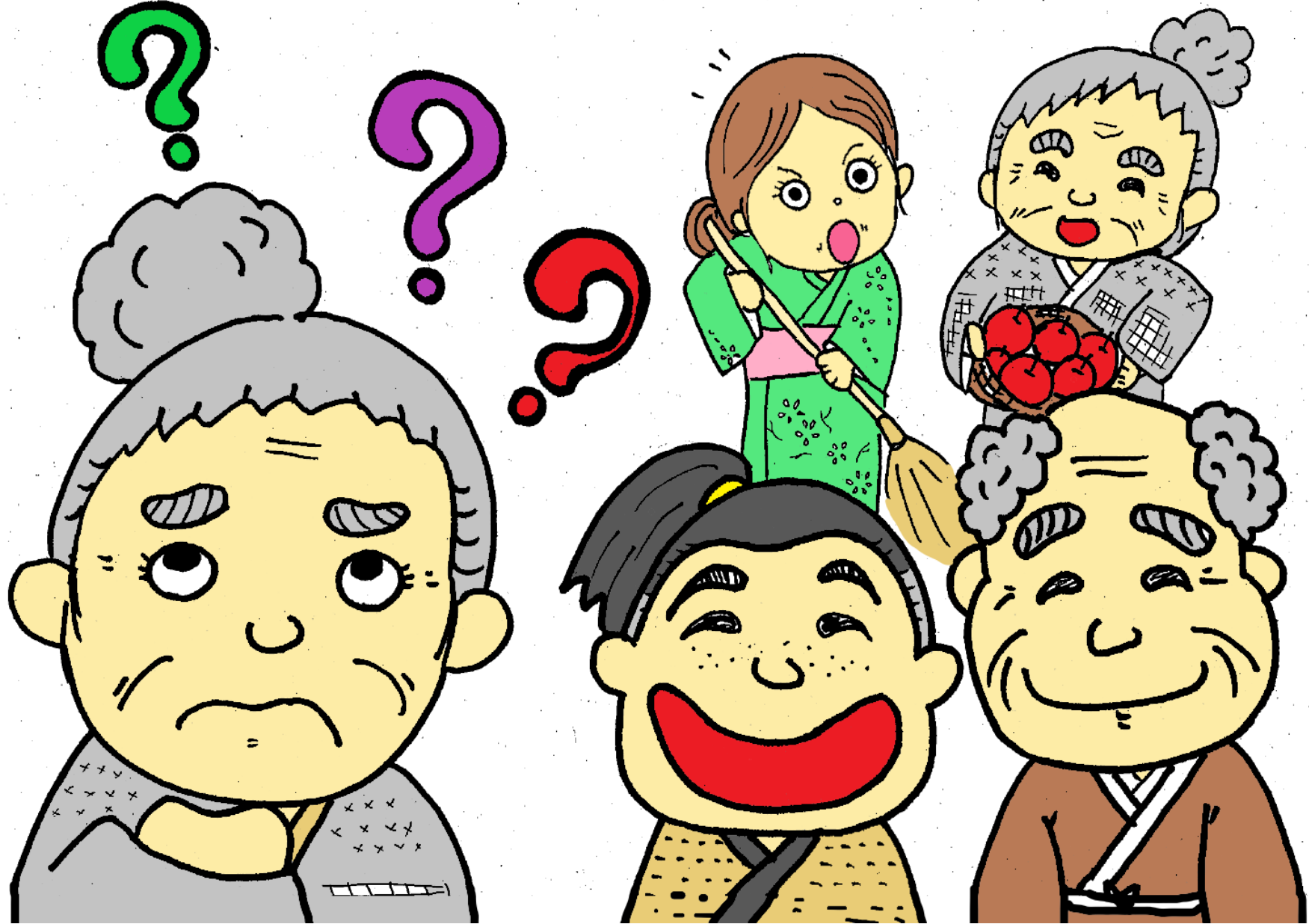


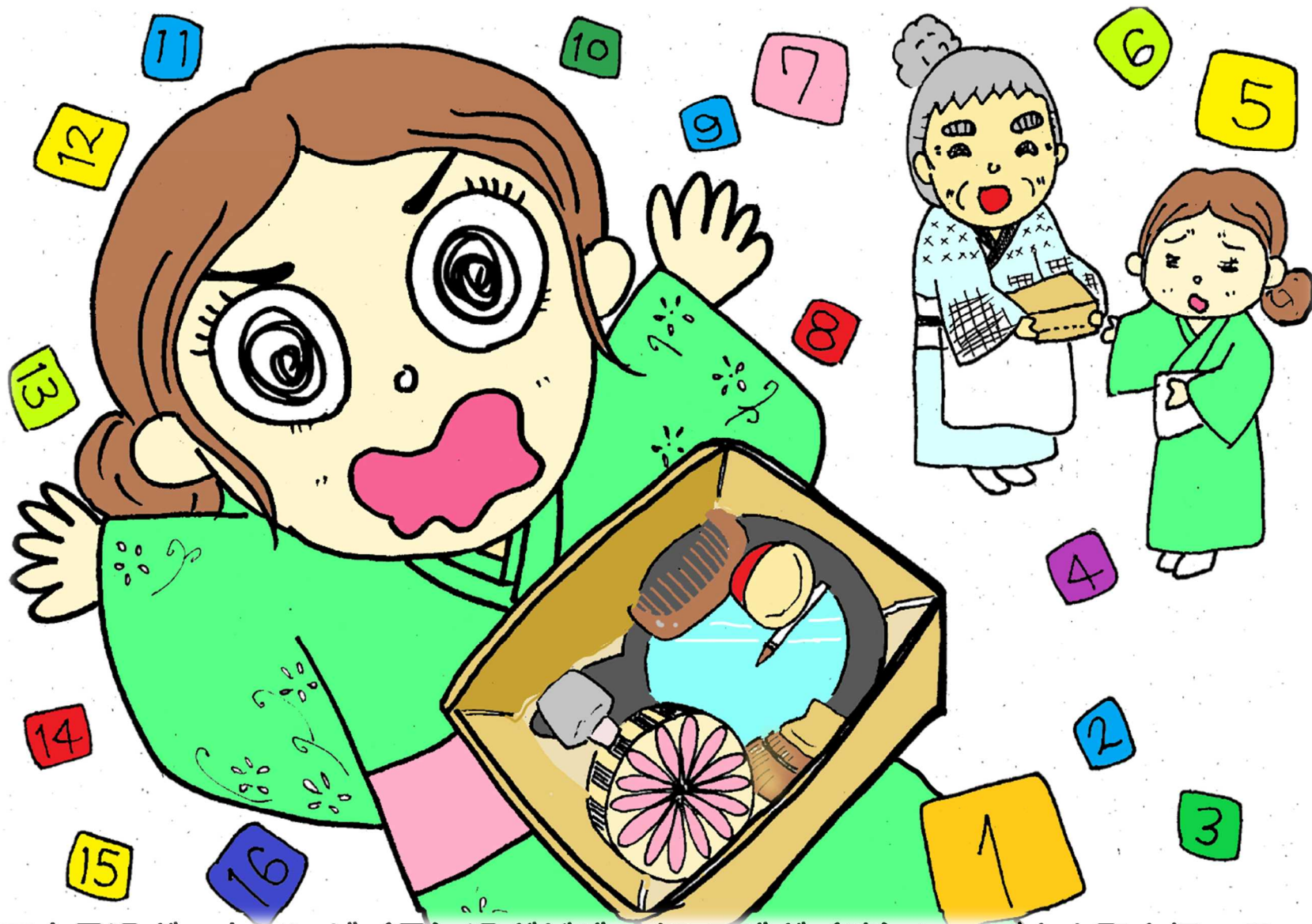
そこで嫁さ「おめの(お前の)話あよ〜ぐわがった。三七(さんしち)二十一日(にじゅういちにち)の願掛けせば(すれば)ばさま必んず死ぬね。すたばって(けれども)、これらわ(私)の言うことば(言うことを)よ〜ぐ聞いて、その通りやらねば(やらないと)ばさまは死なねや(死なないよ)。それら、ばさまさ おめの その気持ちコ見抜がいれば、ばさまは死なね。へば(それでは)、いいが?これらだつきや、朝まに ばさまより 早く 起きで掃除して、神様ど ほどげ様さみつ(水)コど 花コど供えで拜め。ばさまだつきや、二十一日たでは死ぬん だはんで(だから)、これらだつきや良い着物コ着へで やれへ(あげなさい)。うって(とつても)めえもの(美味しいもの)も かへで(食べさせて) やれへ。たった二十一日、我慢へば(すれば)いんだはんでな。おめ、その自分のばさま死ねばいいってす気持ちあ見抜がれねよおに、につこかっこ(ニコニコ)笑いながらばさまの世話コしてやれ。そせば、二十一日 満願の日にはばさまあの世さ行くはんで。」って教えだど。



さあ、嫁あよろこんだ（喜んだ）でばねあ。そして嫁あ、次の朝ま がら いちばんどり（一番鳥）鳴ぐより早く起きだして、掃除もまで〜に（丁寧に）やって、神棚さも仏壇さも花コ供えて、ばさま早く死ぬようにって願掛けで拝んだんだど。そして、「ばさま！その着物だば きたねぐ（汚く）なったはんで、こんだ（今度は）これ着へ」ってあだらしい着物着へでやったり、「これ、この さがな（魚）コ めえはんで食いへ」「今日まだ ぬげして（暑くて）な〜、しゃっこい（冷たい）みつコ でも飲まねがして」につこかっこにつこかっこて世話コしたどな。

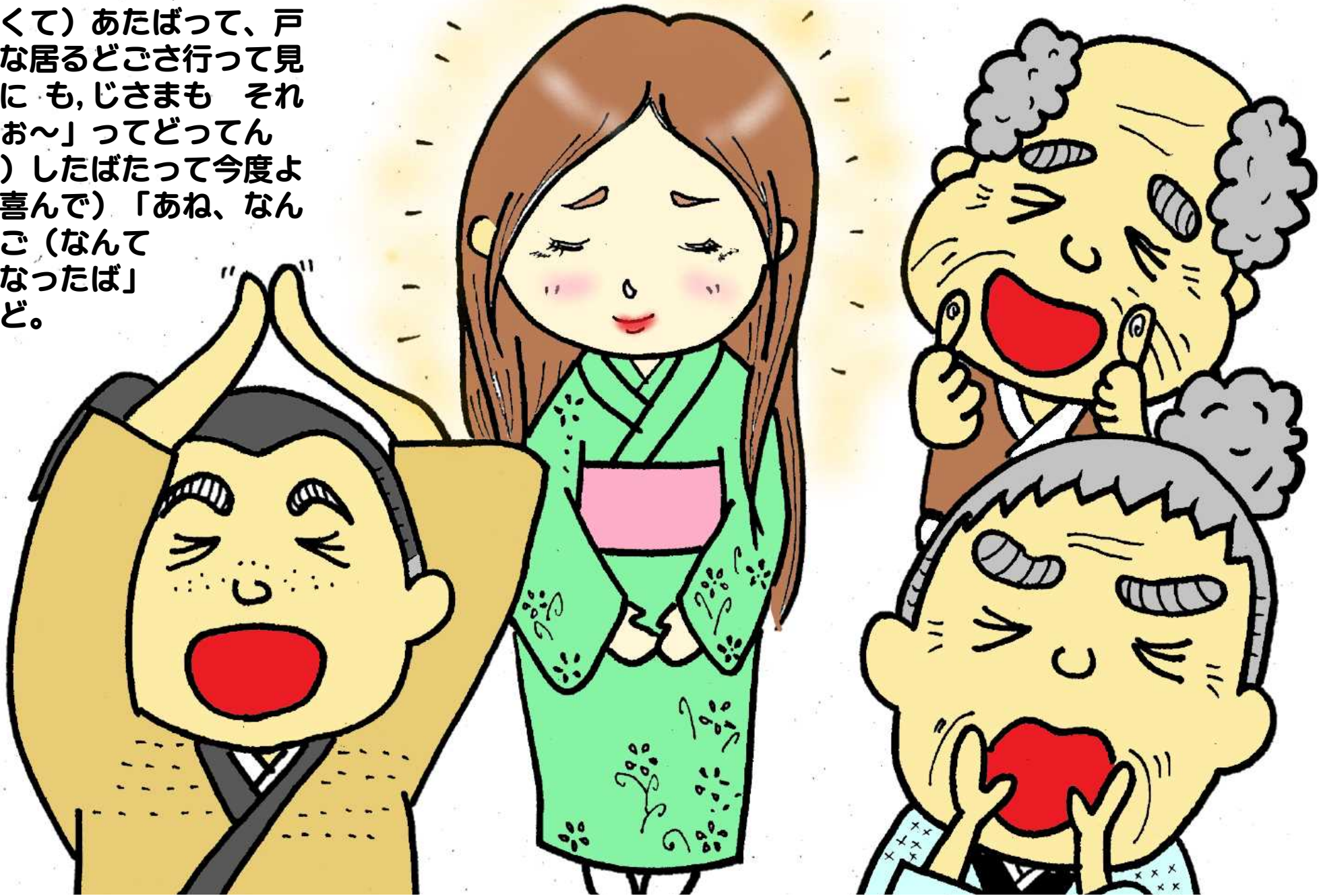
そうしたことで、ばさまも「おいの嫁あどうしてこういぐ（良く）なったんだべ」って不思議に思ったども、いぐねえ（良くない）気だばさね（しない）ではな、ばさまも「あね（嫁）、あね」って声っこも優しくなったど。物コも買って けだり（あげたり）するようになったあど。じさま（爺様）もあに（夫）も、ばさまのぐだめぎ（小言）聞がねくてもいぐなって、嫁のぶへづら（仏頂面）見ねしてもいぐなって、なんだみんな機嫌コいぐなって、え（家）のなが（中）なんだがこうみんななこなこしぐ（仲良く）あがるぐ（明るく）なってきたど。





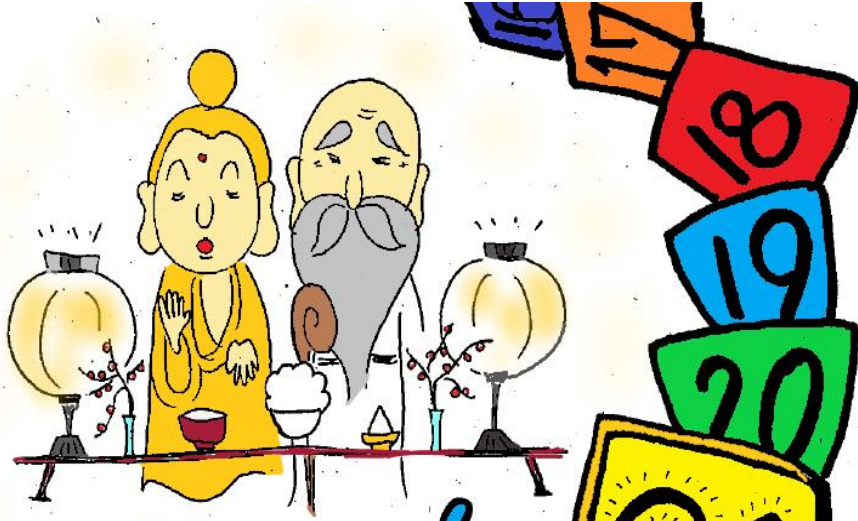
嫁 願掛けで十日過ぎ、十五にち（日）過ぎだど。ある とき（時）に、ばさま町さ行って、なんだがさはごこさ（箱に）はった（入った）もの買ってきて、「あね、あね、おめまいにちまいにち（毎日毎日）いぐ（良く）やってけるはんで、たまに こした（このような）ものも使ってみなが」って、土産コ嫁さけだど。嫁あ驚いで、さっそぐ（早速）ねどごさ（寢室に）行って はごこ 開げでみだきや ながら（中から）手鏡だの櫛だの髪油コだのおしろいだの紅だの出できたど。「わいは（あらまあ）、おらだっきや（私は）この え さ嫁に来てがら何年も紅おしろいつけたこと ね（ない）」あねあドキドキしながら鏡見で、髪さ油コつけで、櫛コで髪といで、さじゃらっと（さらっと）おしろいコつけで、紅もつけだど。

あねあ、ちよつとめぐせふて  
(恥ずかしくて) あたばって、戸  
開げでみんな居るとごさ行って見  
へだど。あにも、じさまも それ  
見で「おろお〜」ってどってん  
(びっくり) したばたって今度よ  
ろごんで(喜んで)「あね、なん  
ぼいいおなご(なんて  
いい女) になったば」  
って褒めだど。



ばさまも「あらら、いぐなったでば〜。今度、とぎどぎ(時々)そして(そうやって)ふとなが  
さ(人前に)出で あさがなが〜(出かけると良いよ)。」ってしたど。それ聞いた、あねのまなぐ  
(目) がら、涙どつと出で、ボダボダと流れ落ちだずおんなあ。

次のしの朝ま 嫁早く起きで、神様ほどげ様さ あがりっこ（明かり）灯して拝むきなつたきや、嫁ハッと気づいた。「今日は二十一日、満願の日だ！満願の日だ…ばさま死んでまる。」さあ嫁、つら真青になってバダクタバダクタど（バタバタと）寺さ はっけで（走って）行ったど。いぎ（息）切らして、寺さ駆け込んで でつただこいで（大きな声で）「おしよ様～！おしよ様～！って呼ばつた（呼んだ）ど。おしよ様、朝早くがら何事だべがどびっくらして出できて「あね、あね、どしたんだば」



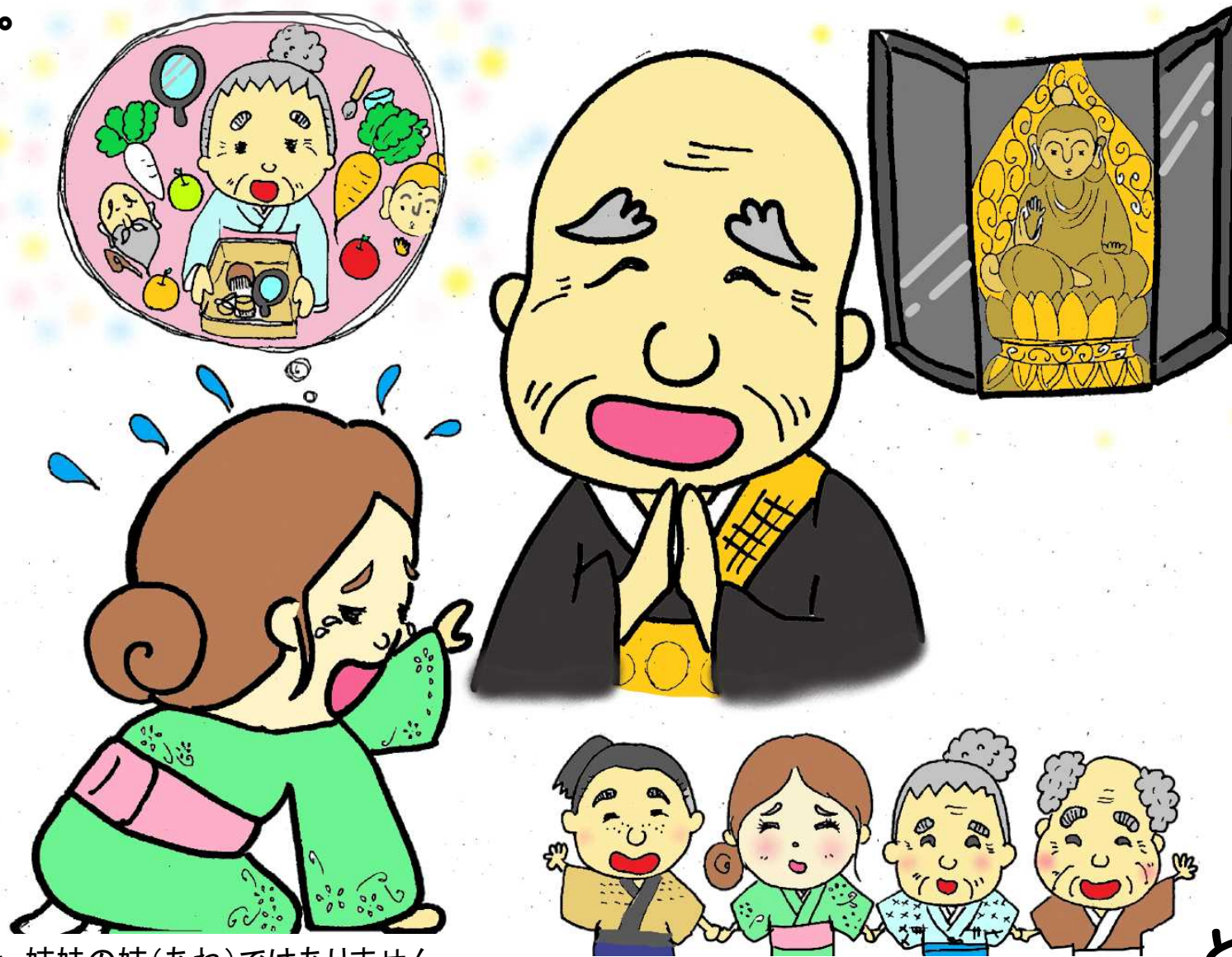
「わい～は、わい～は、おしよ様！おしよ様！今日は家の婆さまを殺してけって願掛けだ満願の日ですじゃ。わい～は、どすべ（どうしましょう）。どすべ。おいの婆さま、仏さま殺さいればどすべ。おいのばさま、何もいぐねぐね。良い人だ。本当あ心のおぐ（奥）の優しい良いばさまだ。おしよ様、おしよ様、何とかしてわの掛けた願ば掛け戻してけらいねべが。」って頼んだど。





おしよ様、ニグラっと笑って「あららら、そんでありしたが。それほど良いばさまだんば、掛けだ願ば掛け戻してやんねばまいな。」ってして嫁ど一緒に本堂さ行って、ありがでえ～ありがでえ～お経あげで、嫁掛けだ願ば掛け戻してやったんだど。

そしてほれ、それがらずものあ嫁ど姑どながいぐ（仲良く）なったつてのお。「ふとづものあ（人というものは、相手の いぐねどごばり（良くないところばかり）見でるんだば まねもんだ（良くないですよ）。ずぶん（自分）でも変わる気になねば、ふとどの付き合いは上手ぐ いぐもんでね（いくものではない）」ず話コだ。



\* あね・・・長男の嫁のこと。姉妹の姉(あね)ではありません

とっつぱれ